

稲作情報 No.13(重要)

水稻の生育が早期化しています

水田農業レベルアップ委員会 技術普及推進部会 [作成:福井県農業試験場、福井米戦略課、JA福井県中央会]

【水稻】生育の早期化に合わせて、適期の防除と収穫を行いましょう。

農業試験場の4月30日移植ハナエチゼンは、出穂期が7月10日と、平年より**6日早く**なりました。

また、**成熟期は8月11日前後（盆前）**となる予測です。

現地でも、地域差はあるものの、出穂期は7月11日前後と、平年より**6日程度早まっています**。

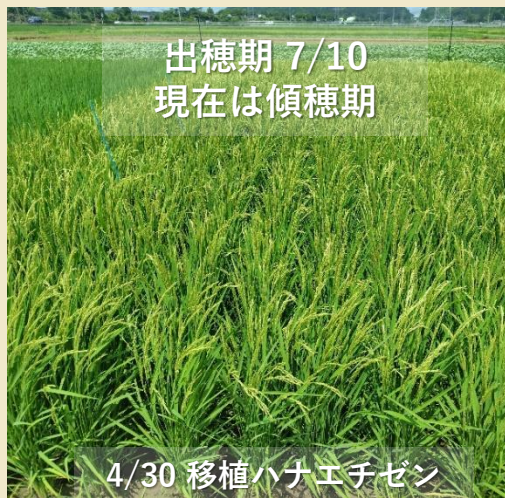
その他の品種でも、5月上旬までに移植したものは、**生育ステージが早期化**しています。

- ・生育の早期化に合わせて、**病害虫の防除を適期に行いましょう**（**斑点米カメムシ類の注意報を発令中**）
- ・**収穫計画を再検討し、適期に刈り取りをしましょう**
- ・水管理は、**こまめな間断通水**を徹底しましょう
- ・乳熟期を過ぎると水稻へのイノシシ被害が増えます。今一度、柵の点検などの鳥獣害対策の徹底を行いましょう

【大豆】

- ・遅くとも開花期（7月下旬）までに、**2回目の培土（本葉5～6葉期）を実施**しましょう
- ・**病害虫の防除を適期**に行いましょう

○農業試験場の生育（7/16時点）



○今一度、鳥獣害対策の徹底を



- ・鳥獣害対策マニュアル等は下記を参照してください。

[福井県鳥獣害対策ホームページ トップ](#)
[福井県ホームページ](#)



○収穫が遅れると米の品質が低下します

刈遅れは、胴割粒や茶米の発生を助長します。
 収穫計画を再検討し、適期に刈り取りをしましょう



○斑点米カメムシ類の注意報が発令中！



クモヘリカメムシ アカスジカスミカメ 斑点米カメムシ類による着色粒

- ・着色粒が1000粒のうち1粒が混入することで2等以下になってしまいます。
- ・対策は、**薬剤による適期防除**が重要です

いちほまれ 生育状況 令和8年7月15日調査

いちほまれ



	農業試験場		現地 平坦地			現地 中山間地	
栽培方法 移植播種時期	上旬移植 4/30	中旬移植 5/20	上旬移植 5/4	中旬移植 5/19	直播 5/5	中旬移植 5/21	直播 5/13
地点数	1	1	4	9	7	2	1
草丈 cm	82.8	66.8	-	72.8	70.0	69.7	69.4
茎数 本/m ²	531	593	-	542	556	492	876
葉色 葉色板	4.2	3.8	-	4.1	4.0	4.0	4.0
幼穂形成期	7/3	7/14	7/3	-	-	-	-
幼穂形成期 (平年)	7/7	7/14	7/7	7/15	7/16	7/14	7/20

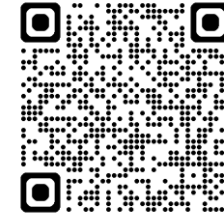
ハナエチゼン・コシヒカリ・あきさかり 生育状況 令和8年7月15日調査

品種		ハナエチゼン			コシヒカリ					あきさかり			
調査場所		農業 試験場	JA坂井 農場	現地	農業 試験場	JA坂井農場		現地		農業 試験場		JA坂井 農場	現地
栽培方法 移植・播種時期		移植 4/30	移植 4/30	移植 4/27	移植 5/20	移植 5/15	直播 5/7	移植 5/15	直播 5/5	移植 4/30	移植 5/20	移植 5/15	移植 5/16
地点数		1	1	8	1	1	1	15	4	1	1	1	3
草丈 cm	本年	-	-	-	74.3	77.9	77.4	77.9	72.2	73.8	63.3	71.7	72.5
	平年	-	-	-	71.5	-	-	79.1	80.2	70.2	63.6	-	75.2
茎数 本/m ²	本年	566	-	-	513	352	607	417	464	560	638	500	473
	平年	543	-	-	492	-	-	418	532	624	575	-	486
葉色 葉色板	本年	-	-	-	4.1	4.2	4.5	4.0	3.9	4.3	4.2	4.5	4.2
	平年	-	-	-	4.0	-	-	4.0	4.0	4.4	4.3	-	4.6
幼穂 形成 期	本年	6/18	6/19	6/20	7/11	7/7	7/14	7/9	7/11	7/3	7/14	7/12	7/9※
	平年	6/26	6/26	6/27	7/12	7/10	7/15	7/11	7/14	7/9	7/14	7/14	7/12
出穂 期	本年	7/10	7/10	7/11	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	平年	7/16	7/16	7/17	8/2	8/1	8/6	8/1	8/4	8/1	8/4	8/5	8/2

(留意点) - はデータなし、※は一部データ欠損により数字が変更される場合があります

現状(7月上旬時点)

- ・水田周辺雑草地内の斑点米カメムシの生息数 平年の約1.2倍
- ・全県的に多くの地点で生息が確認されている
- ・多く確認されているカメムシは、**アカスジカスミカメムシ、ホソハリカメムシ**
- ・他県で問題となっているイネカメムシは、現時点では捕獲されていない。



ホソハリカメムシ



アカスジカスミカメ

注意報の詳しい内容は
上記QRコードから確認できます

今後の対策

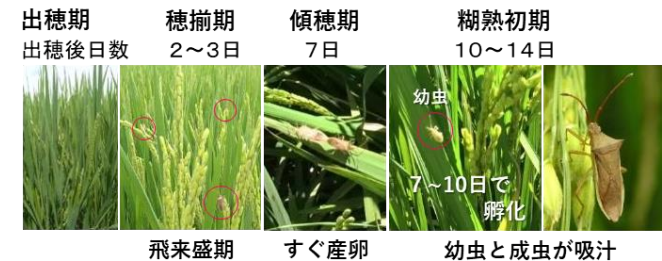
①薬剤による適期防除

「粉・液剤での防除」

- ・穂揃期～乳熟期(出穂3～5日後頃)と糊熟初期(出穂10～14日後頃)の**2回薬剤散布**を行う
- ・**農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類の発生が多い場合は、追加防除**を行う

(留意点)

- ・斑点米カメムシ類は、日中あまり活動しないので、**夕方か早朝に薬剤散布**を行う
- ・カメムシ類は、水田の周縁部に多く発生するので、水田防除の際は畦畔も含めて防除する
- ・麦跡の雑草地では、斑点米カメムシ類が繁殖しているため、特に注意して防除を行う
- ・粒剤での防除は、薬剤によって散布時期が異なるので注意する
- ・薬剤の散布にあたっては、最新の農薬使用基準(使用時期・使用回数等)を遵守する



②畦畔・麦跡地の雑草地の草刈り・圃場内の除草(特にヒエ・ホタルイ等のイネ科雑草)の徹底

(留意点)

- ・出穂期以降の草刈りはカメムシ類の水田内への侵入を助長するので行わない(現在、出穂期前後のハナエチゼンの圃場周辺は注意)
- ・水田内のイネ科雑草が多い圃場では、出穂前からカメムシ類が圃場に侵入、繁殖するため、圃場内の除草を徹底する。
- ・後作にソバの播種を実施する場合は、圃場の排水性を確保するため、耕耘ではなく、モア等によって雑草を処理する。
- ・後作にソバの播種を実施しない場合は、早々に耕起を実施する。

大豆

病虫害対策

病虫害	防除適期
葉焼病	発生初期の7月下旬
紫斑病	開花後20日目とその10日後の2回
ウコンノメイガ	葉が巻き始める7月下旬～8月初旬
シロイチモジマダラメイガ	莢への食入前 若莢期～莢伸長期の8月中旬以降
フタスジヒメハムシ	第2世代成虫発生盛期の8月下旬 〔 * 要防除水準 8月下旬（第2世代成虫発生盛期）の払い落しで、1.5 m、2条あたり約70頭以上 〕
カメムシ類	子実肥大期の8月下旬と9月10日頃の2回 〔 * 要防除水準 8月下旬（圃場侵入期）・・・ダイズ100個体あたり0.3頭 9月中旬（発生盛期）・・・ダイズ100個体あたり4.0頭以上 〕

除草・畝間灌水

項目	内容
雑草防除	除草剤の散布は時期が遅れないようにする。
畝間灌水	葉が裏返る前に畝間灌水を行う 目安は1週間以上降雨がないとき (留意点) ・短時間で水を圃場に流し込み、圃場全体に水が行き渡ったら、湿害回避のために速やかに排水する ・かん水はできるだけ地温の低い夕方または早朝に実施する ・排水の悪い圃場では湿害となるため、実施しない

薬剤は福井県病虫害防除指針を参照すること



葉焼病



ウコンノメイガ



フタスジヒメハムシ



カメムシ類



畝間灌水